第４章　具体的な展開（当面の重点施策）

１．３つの重点施策

第３章で掲げた施策のうち、スポーツコミュニティの形成に早期に取り組むために、スポーツ振興の新たな環境づくりを進める上で有効かつ緊急性の高い、次の３つを当面の重点施策とします。

【重点施策】

1　**地域スポーツクラブの普及**　（「する」スポーツの施策１）

2　**ホームタウン・チーム等の応援**　（「みる」スポーツの施策３）

3　**スポーツ施設の充実**　（スポーツを「支える」の施策２）

次ページ以降で、重点施策の概要と施策推進のステップを示します。

【親子でチャレンジ】

２．地域スポーツクラブの普及（重点施策１）

（１）地域スポーツクラブの必要性

地域スポーツクラブとは、①子どもから高齢者まで（多世代）、②さまざまなスポーツを愛好する人々が（多種目）、③初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのことです。

こうした特徴を持つ地域スポーツクラブは、単にスポーツを「する」場の確保という効用だけでなく、例えば異なる世代の人たちが一緒にスポーツをすることで世代間の交流を深めたり、スポーツの指導を通して地域の大人たちと子どもたちを結びつけたりというように、地域のコミュニケーションの広がりや一体感の創出などコミュニティを再構築する重要な手段になると考えられます。

このように地域スポーツクラブを普及することは、町田市が目指すスポーツコミュニティの形成に非常に有効であるため、当面の重点施策の１つとして推進します。

（２）施策推進のステップ

<u>ステップ１：地域スポーツクラブに関する啓発</u>

パンフレットの配布や広報等により、地域スポーツクラブに関する情報の周知や研修会などを行い、地域スポーツクラブ設立のきっかけを作ります。

<u>ステップ２：行政による地域スポーツクラブ支援策の検討</u>

地域スポーツクラブの設立や運営に係る、行政からの情報提供や財政支援、施設に関する支援などのあり方について検討します。

<u>ステップ３：モデルとなる地域スポーツクラブの設立</u>

設立準備委員会の結成やプレ事業の実施など、行政と地域との協働により町田市のモデルとなる地域スポーツクラブを設立します。

<u>ステップ４：地域の特性や実情に合わせた普及・拡大</u>

地域ごとの実情を踏まえながら地域住民やスポーツ団体などによる自主運営の地域スポーツクラブの設立を順次進めていきます。

３．ホームタウン・チーム等の応援（重点施策２）

（１）ホームタウン・チーム等の応援の意義

町田市を本拠地とするＡＳＶペスカドーラ町田やＦＣ町田ゼルビアなどのホームタウン・チームが活躍することで、質の高い観客やサポーター、ボランティアが育ち、地域の交流、ひいては市域を越えた交流が活性化することが期待されます。こうしたホームタウン・チームの存在は、地域の誇りとなり、子どもたちに夢や憧れを与え、さらには郷土への愛着や地域社会の連帯感をも生み出すものです。また、トップアスリートが安心してスポーツに取り組めるように、市民がまちをあげてサポートするような社会的な環境が醸成されることも期待されます。

このようにホームタウン・チーム等の応援は、都市・テーマ型スポーツコミュニティ形成の中心的な役割を果たすものと考えられるため、当面の重点施策の１つとして推進します。

（２）施策推進のステップ

ステップ１：ホームタウン・チーム等が活躍できる環境の整備

小野路球場や陸上競技場、総合体育館の改修など、市民が観戦する場を充実します。また、ホームタウン・チーム等の認知度向上のための方策を検討し、実行していきます。

ステップ２：ホームタウン・チーム支援組織の設立

ホームタウン・チームや国際大会等で活躍するトップアスリートを後方支援する組織として、市民が主体となったホームタウン・チーム協議会等を設立するため、関係機関との調整や事業提案などの支援を実施します。

ステップ３：ホームタウン・チーム支援組織の活性化

ホームタウン・チーム協議会等によるスポーツ教室などの地域密着事業やファン拡大事業、広報事業、イベントの開催などホームタウン・チームやトップアスリートを応援するさまざまな活動を支援します。

ステップ４：トップアスリートが安心して活躍できる仕組みの検討

町田で活躍するトップアスリートの増加を図るため、トップアスリートが安心して活躍できるように、セカンドキャリアや生活支援の仕組みについて検討します。

４．スポーツ施設の充実（重点施策３）

（１）スポーツ施設の必要性

２０１３年の東京国体の開催などトップアスリートが活躍できる場から、地域住民が自らの健康づくりなどに取り組むための身近なスポーツの場まで、スポーツにとって「する」場所は必要不可欠なものです。日常的にスポーツに取り組む市民を増やすためには、スポーツ施設の充実が必要です。

また、「みる」スポーツを充実するためには、広域競技大会やスポーツイベント等が開催できる観覧席を備えたスポーツ施設も必要になります。さらに、スポーツコミュニティの形成に合わせた施設のあり方や整備も重要な課題となっています。

このようにスポーツ施設を充実することは、すべてのスポーツ振興の基盤であるため、当面の重点施策の１つとして推進します。

（２）施策推進のステップ

<u>ステップ１：東京国体の開催に向けた施設の改修</u>

東京国体の開催場所である小野路球場や陸上競技場、総合体育館の改修を国体終了後の活用も考慮して、計画的に進めます。

<u>ステップ２：施設の特性による棲み分け</u>

主に地域型スポーツコミュニティ（地域スポーツクラブ）で利用する施設と、都市・テーマ型スポーツコミュニティ（ホームタウン・チーム等）で利用する施設の棲み分けを検討します。

<u>ステップ３：市内施設の有効活用</u>

地域センターや公園、道路、学校施設などについて、創意工夫や有効活用により、近所で気軽に運動ができる場や機会の拡大を図ります。

<u>ステップ４：東京国体後の施設整備計画の策定</u>

クラブハウスや体育館などのスポーツコミュニティ（主に地域型）の形成のための施設整備について、町田市の現状を踏まえて検討を進め、東京国体終了後に実施するための施設整備計画を策定します。

スポーツコミュニティとそれに対応可能な町田市の施設の現状

		都市・テーマ型スポーツコミュニティ	地域型スポーツコミュニティ	個別のスポーツグループ
		ホームタウン・チームなどを核とし、地域・市域の枠を超えて、色々な楽しみ方ができるコミュニティ	地域スポーツクラブなどを核として、地域密着型でスポーツを楽しむコミュニティ	個人・グループが個々にスポーツを楽しむ形態
施設基準		広域競技大会やスポーツイベント等の開催が可能で、各種競技大会の開催基準に適合し、観客席を有する施設	スポーツクラブで使用するための一定の規模、設備、クラブハウス機能などを備えた拠点となる施設	スポーツができる最低限の機能を備えた、個人・団体の個別利用に供することができる施設
施設分類		設置コストや運営コストが多大なため、行政が中心になって設置・運営すべき施設	設置には行政等の支援が必要である場合もあるが、運営は地域スポーツクラブが主体となって行うべき施設	基本的に民間に設置を委ねることが可能であるが、政策的に行政が設置・運営することもありえる施設
室内	体育館	総合体育館(メインアリーナ)	小中学校 都立高校、大学等	総合体育館、サン町田旭体育館、小中学校
室内・外	プール	市立室内プール(50mプール)	小中学校 都立高校、大学等	市立室内プール、学校温水プール／*民間スポーツクラブ*
屋外	陸上競技場	陸上競技場(トラック、インフィールド)		陸上競技場
	野球 ソフトボール場	小野路球場	小中学校・学校跡地、スポーツ広場 都立高校、大学等	小野路球場、市民球場、三輪みどり山球場、藤の台球場、鶴川球場、野津田球場、忠生公園ソフトボール場、小中学校・学校跡地、スポーツ広場
	テニスコート		中学校・学校跡地、スポーツ広場 都立高校、大学等	成瀬クリーンセンター、町田中央公園、鶴間公園、鶴川中央公園、鶴川第2、相原中央、スポーツ広場／*民間テニスコート*
	多目的運動場 球技場		小中学校・学校跡地、スポーツ広場 都立高校、大学等	鶴間公園運動広場、相原中央グラウンド、小野路グラウンド、木曽山崎グラウンド、上の原グラウンド、小中学校、スポーツ広場
その他	トレーニング室			総合体育館、サン町田旭体育館、市立室内プール／*民間スポーツクラブ*
	フットサル場			*民間施設*
	クライミング(ロック、ツリー)			(未設置)公園、公共施設の壁面／*民間*
	ストリート系(インラインスケート、BMX他)			(未設置)公園、騒音が支障ない場所／*民間*

第５章　計画の推進にあたって

１．達成目標の目安（数値目標）

計画を着実に推進するために、計画の最終年次である２０１８年度における成果として３つの目標を定めます。

達成目標１．多くの市民がスポーツに日常的に取り組んでいます。

指標：　運動やスポーツを行う機会を持てた市民の割合

現状　３７．０％　※　⇒　２０１８年度　　６０％

※　２００８年度町田市市民意識調査結果より

（指標・目標値の考え方）

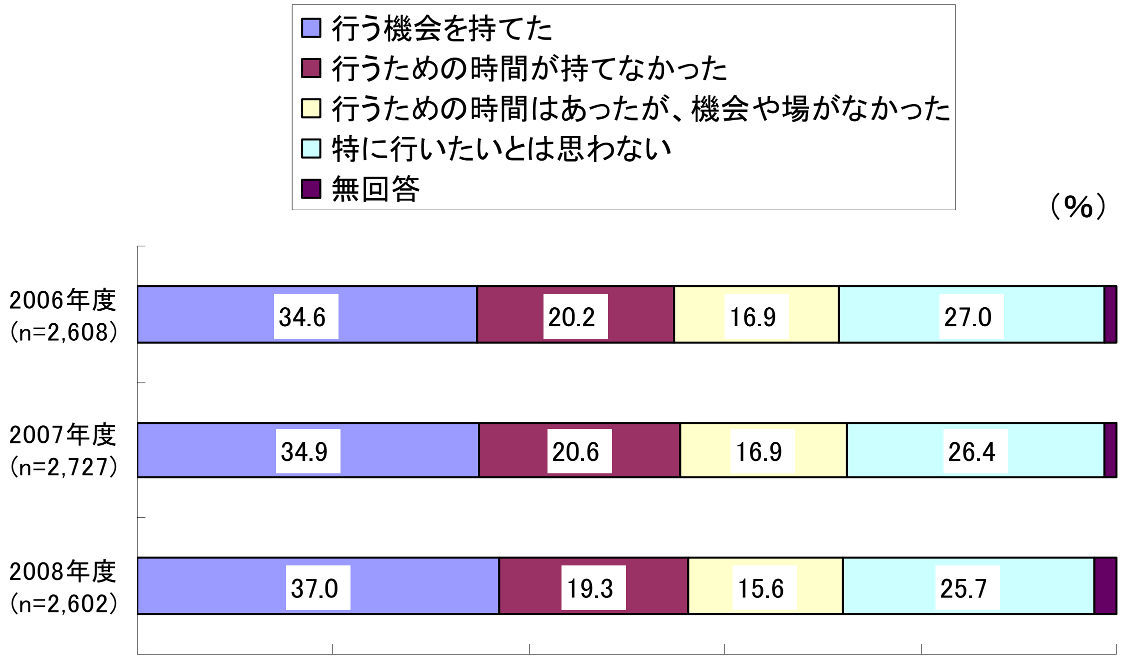
国（文部科学省）の「スポーツ振興基本計画」（２０００年策定・２００６年改定）では、「生涯スポーツ社会実現のため、できる限り早期に、成人の週１回以上のスポーツ実施率が５０％となることを目指す。」となっています。また、東京都の「スポーツ振興基本計画『スポーツが都市を躍動させる』」（２００８年策定）では、「２０１６年度までにスポーツ人口のすそ野を広げることにより、週１回以上スポーツを実施する成人の割合を、全体で６割以上とします。」となっています。

これらを参考にして、町田市では、２０１８年度時点で、運動やスポーツを行う機会を持てた市民の割合が６０％になることを目標とします。なお、町田市の市民意識調査では､「週１回以上」という表現を用いていないため、国や東京都と同一の指標ではありません。

（現状値について）

町田市のスポーツに関して、２００８年度の市民意識調査では、運動やスポーツを「行う機会を持てた」（３７．０％）の割合が最も高くなっていますが、「特に行いたいとは思わない」（２５．７％）市民の割合もかなり高くなっています。こうした市民にいかに「行いたい」と思ってもらえるかが大きな課題となっているといえます。

問　あなたは、市内・市外に関わらず、運動やスポーツを行う機会を持つことができましたか？（〇印を１つ）



達成目標２．多くの地域スポーツクラブが活動しています。

指標１：　ホームタウン・チームを核とする地域スポーツクラブの数

２０１８年度　　１クラブ

指標２：　身近な場所で活動する地域スポーツクラブの数

２０１８年度　　１０クラブ

（指標・目標値の考え方）

東京都の「スポーツ振興基本計画『スポーツが都市を躍動させる』」では、「２０１３年の東京国体開催時までに、各区市町村に１～２の地域スポーツクラブの設立、２０１６年には、都内に１００以上の地域スポーツクラブの設立を目指します。」となっています。

町田市では、東京都の目標を踏まえ、都市・テーマ型スポーツコミュニティを具現化する「ホームタウン・チームを核とする地域スポーツクラブ」を１クラブ、地域密着型でスポーツを楽しむ地域型スポーツコミュニティの核となる「身近な場所で活動する地域スポーツクラブ」を１０クラブ育成することを目標とします。

達成目標３．多くの市民がホームタウン・チームを応援しています。

指標：　町田市を本拠地とするホームタウン・チームのホームゲームでの年間観戦者数

現状　２５，０６７人　※　⇒　２０１８年度　１７０，０００人

※　２００８年度スポーツ振興課資料より

（指標・目標値の考え方）

この計画では、「みる」スポーツをスポーツ振興における重要な場面の１つとしてとらえています。そこで多くの市民が、ホームタウン・チームを応援している状態を計画の達成目標とし、達成状況を測る指標を「町田市を本拠地とするホームタウン・チームのホームゲームでの年間観戦者数」とします。

現在、町田市ではＡＳＶペスカドーラ町田やＦＣ町田ゼルビアのホームゲームが開催されていますが、これらホームタウン・チーム等の応援などにより、２０１８年度の年間観戦者数を１７０，０００人にすることを目標とします。

年間観戦者数（ホームゲーム）

ＡＳＶペスカドーラ町田

２００８年度	１０，７６７人	（年間７試合）
将来	２２，５００人	（年間１５試合・平均１，５００人）

ＦＣ町田ゼルビア

２００８年度	１４，３００人	（年間７試合）
将来	１４７，０００人	（年間２１試合・平均７，０００人）

参考）２００８年度Ｊ２[12]１試合平均入場者数　７，０７２人
なお、ＦＣ町田ゼルビアは、Ｊ２昇格を目指しています。

12　J2：日本のプロサッカーリーグ（略称、Jリーグ）の２部リーグのことで、「Jリーグディビジョン２」の略。1999 年に発足し、2009 年度は 18 チームが所属している。

２．計画の推進体制

この計画は、町田市をはじめとして市民・企業・大学などさまざまな主体が協働することにより推進するものです。

計画に掲げる施策の推進状況については、市長の附属機関である町田市スポーツ振興審議会に毎年度報告するなど、適切な進行管理に努めます。

３．計画の評価及び見直し

計画の達成目標（数値目標）について毎年度の達成状況を確認し、個別の事業が計画の達成にどれだけ寄与（貢献）しているかを評価します。評価結果は、個別事業の見直しの材料になるとともに、計画の中間年での計画や目標の見直しの検討材料とします。